

くがつこのかさんとう けいてい おも (おうい)  
九月九日山東の兄弟を憶う (王維)

解説 雪の京都の風情を詠じたもの。

ひと いきよう  
独り 異郷に 在つて 異客と 為り

かせつ あ ますます しん おも  
佳節に 逢う毎に 倍 親を 思う

語釈 ※暁Ⅱ夜の明けるころ。 ※簾Ⅱ細い葦や細く割った竹を糸で編み連ねて垂らすもの。 日よけ。 ※撥Ⅱ手に持つて高く上げる。 ※旧都Ⅱ昔の都。 京都のこと。 ※金閣、銀閣Ⅱ金閣寺、銀閣寺のこと。 ※佳景Ⅱいいながめ。 いい景色。 ※四明Ⅱ比叡山。 ※鞍馬Ⅱ鞍馬山の略。

はる し けいてい たか のほ ところ  
遙かに 知る 兄弟 高きに 登る 処

通釈 朝、起きて簾を上げると辺り一面の雪。

京都の冬は雪を賞し、雪を吟ずるに値する。雪の金閣寺、銀閣寺はまさに絶景。また遠くを眺めると比叡山、鞍馬山の峰が自分に迫つて来るようだ。

あまね しゆゆ さ いちにん か  
遍く 茱萸を 挿して 一人を 少くを